「鼠径ヘルニア」について

「足の付け根がふくらむ」「立っていると出てくるが、横になると引っ込む」―このような症状がある場合、「鼠径（そけい）ヘルニア」の可能性があります。一般には「脱腸（だっちょう）」として知られている病気です。

鼠径ヘルニアとは、お腹の中の臓器を包んでいる腹膜が、足の付け根の筋肉の弱くなった部分から外側へ飛び出す状態です。飛び出した部分には腸が入ることが多いため脱腸と呼ばれますが、脂肪組織などが出てくることもあります。成人では特に男性に多くみられますが、女性や子どもにも起こることがあります。

年齢とともに筋肉や組織が弱くなることに加え、重い物を持つ作業、便秘、慢性的な咳などによってお腹の圧力が高まることも原因になります。主な症状は、足の付け根のふくらみです。立った時や力を入れた時に目立ち、横になると自然に引っ込むことが多いのが特徴です。初めは違和感程度でも、次第に痛みや不快感を伴うことがあります。

とくに注意が必要なのは「嵌頓（かんとん）」と呼ばれる状態です。飛び出した腸が戻らなくなり、血流が悪くなると、強い痛みや吐き気、腸閉塞を起こすことがあります。この場合は緊急の治療が必要になることもあります。

鼠径ヘルニアは、自然に治ることはなく、根本的な治療は手術のみです。現在では、弱くなった部分を人工の補強材（メッシュ）で補う方法が一般的です。以前のように組織を縫い寄せる方法（組織修復法）と比べ、術後の違和感や再発を減らすことが期待されています。

手術には、鼠径部を切開する方法と、腹腔鏡を使って行う方法があります。近年では、体への負担を考慮した治療も広がっており、今年の 6 月からは通常の腹腔鏡手術に加えて、ロボット支援下で行う腹腔鏡手術も保険適用となりました。どの方法が適しているかは、ヘルニアの状態や基礎疾患などご本人の体調を考えて決定します。

鼠径ヘルニアは命に関わることが少ない一方で、放置すると急な症状を起こすことがあります。足の付け根のふくらみや違和感に気づいたら、早めに医療機関へ相談することが大切です。

【外科診療部長　田中　成岳】